

非常通報装置

White Lock 991D

取扱説明書



本製品をお使いになる前に、本書をお読みください

はじめに

この度は、「WhiteLock991D」をご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

「WhiteLock991D」（以下、本製品）は、デジタル携帯電話機と組み合わせて使用する通報装置です。製品は、以下の2種類がありますので、ご使用になるタイプ別に合わせて本書をお読み下さい。

WhiteLock991DS (WL991DS)

本体前面に人や動物等が放出する赤外線を検知する赤外線センサーを搭載しています。この赤外線センサーが検知したときに通報します。センサーの検知範囲により2種類あります。

WhiteLock991DS10 検知範囲が5メートルのタイプ

WhiteLock991DS18 検知範囲が10メートルのタイプ



WhiteLock991DG (WL991DG)

本体から出ているリード線に接続されたセンサーやリレーなどの外部信号入力を検出して通報します。

接続できるセンサーなどは、無電圧a接点仕様のものです。



本製品は、携帯電話機に接続して利用します。また、通報を受ける電話機は発信元（通報元）の電話番号が確認できる携帯電話機やPHS、ナンバーディスプレイ対応電話機をご利用ください。

事前に発信元の電話番号を、通報を受ける電話機に登録しておくことで、より確認がしやすくなります。

本書では、赤外線センサータイプ「WL991DS10」と「WL991DS18」で検知距離に依存しない場合は「WL991DS」、「WL991DG」と「WL991DS」でタイプに依存しない場合は「WL991D」と記述しているところがあります。

別冊の「かんたんマニュアル」の動作確認後に「携帯メール通報」で通報したいときは

本書内の注意事項等と、「16」ページの「通報の種類」からご覧下さい。

製品の最新情報や本製品に接続できるデジタル携帯電話機の機種について

製品の最新情報や接続出来る携帯電話機の情報は、製品ホームページ <http://www.adocon.co.jp/> 又は <http://www.adocon.jp/> でご案内しております。

ご使用前に、本書をよくお読みの上、内容を理解してからお使いください。

本製品設定後は、動作確認をしてお使いください。

本書はお読みになった後も、本製品のそばなどいつも手元においてお使いください。

本書に記載されている内容は、予告なく変更される場合があります。あらかじめご了承ください。

本書の内容を無断で転載することは禁止されています。

特 徴

• 電池で1ヶ月以上の連続駆動

1日に1回程度の通報なら新品のアルカリ電池で2ヶ月以上の連続駆動が可能です。

電池駆動ですので、電源コンセントは必要ありません。

使い方と製品タイプにより1ヶ月から4ヶ月ぐらいの開きがあります。

• 簡単設定

本製品の設定は、内部のスライド式スイッチと押しボタンスイッチを使って簡単に設定できます。

• 携帯電話機の電源コントロール機能搭載

監視中（通報しないとき）は、本製品に接続された携帯電話機の電源を自動的にOFFにし、携帯電話機のバッテリーの消耗を少なくします。

• 電池残量が少なくなると自動通報

本製品の電池残量が少なくなると自動的に通報を行います。

• 通報方式は3種類

固定電話、移動電話などへの「タダ電通報」、相手が出るまでベルを鳴らす「出るまで通報」、携帯電話機への「携帯メール通報」の何れかを選択できます。

また、通報先が話し中や電話に出ない場合（携帯電話機やPHSの場合は、電源OFFや圏外も含みます）に、電話がつながるまでダイヤルを繰り返す機能など、確実に通報するための数々の機能を組み込んでいます。「タダ電通報」では料金はかかりませんが、一部の電話機によっては呼出音を鳴らさずに電話を取る場合があります。その場合は料金が掛ってしまいます。たとえば、携帯電話の留守番電話サービスやドライブモードなどです。ご注意ください。

本書で「携帯メール」と呼んでいるものは、NTTドコモのショートメール、ポータフォン（IDJ-PHONE）のスカイメール、ツーカーグループのスカイメールを指します。

ショートメール、スカイメールとは、携帯電話機への文字メッセージ送信サービスです。インターネットで利用するeメール（電子メール）とは異なります。

通報についての詳しい説明は、本書「16」ページの「通報の種類」をご覧ください。

各メールサービスについての詳細は、携帯電話機の取扱説明書または携帯電話会社にお問合せ下さい。

ご使用前に

略称、商標について

記載の会社名または製品名は各社の登録商標です。

制限事項

本製品は日本国内での使用を目的に設計されています。国外でのご利用は出来ません。

本製品と接続可能な携帯電話機は下記の通りです。

デジタル式携帯電話機のみ接続できます。デジタル携帯電話機の種類によっては、正常に動作しない機種もございますのでご注意ください。

2003年11月現在、利用できない携帯電話機は、SONY、京セラ、NEC製の一部の機種です。

また、CdmaOne、PHS、FOMAには対応していません。

対応機種の情報はホームページ (<http://www.adocon.co.jp/>又は<http://www.adocon.jp/>) をご覧下さい。

通報方法は、本製品内部のスイッチで設定します。

通報を受け取った側の受話器からは何も聞こえません、また、「携帯メール通報」のメッセージを変更することは出来ません。

本製品に接続する携帯電話機への充電機能はありません。

WL991Dは通報を開始するときに携帯電話の電源をONにして30秒待ちます。この30秒の間に携帯電話に電話がかかってきた場合、通報動作でかかってきた電話にでてしまい実際の通報は行われな
ない場合があります。

本製品の操作について

電源スイッチをOFFにした直後にONにすると機器が正しく起動しないことがあります。電源スイッチをOFFにしてから再びONにする際には、OFFの後1秒以上待ってONにしてください。本製品内部の設定スイッチを操作する場合は、必ず本製品の電源スイッチをOFFにしてから行って下さい。

電池について

製品パッケージに電池はついておりません。006P 9Vのアルカリ電池を別途ご用意下さい。電池残量が残り少ない状態で、赤外線センサーが検知したとき電池電圧が低下したことを通報することがあります。これは電池残量の警告が最優先されるためで異常ではありません、電池はお早め

に交換するようにして下さい。

安全にお使いいただくために必ずお守りください

本製品は以下の注意事項をよくお読みいただき正しくお使いください。間違った使い方をされると、感電、火災や機器の故障が発生するおそれがあります。安全にお使い頂くために必ずお守りください。

- ・ 本製品を人命に直接関わる医療機器のような、極めて高い信頼性や安全性を必要とされる設備には接続しないでください。また、携帯電話機を利用する際には電波の影響を受けやすい機器などの近くでのご使用はお止めください。
- ・ 本製品は侵入等の防止装置ではありません。本製品の故障、誤動作、不具合、あるいは停電等の外部要因によって、通報の機会を逸したために生じた損害等の純粹経済損害につきましては、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。
- ・ 本製品もしくはそれに接続されている部分から異臭がしたり、過熱や煙が出たりする場合は、ただちにご使用を止め、電源を切り、取り外してお買い上げの販売店、または弊社までご相談ください。
- ・ 本製品、及び付属機器を分解したり改造したりしないでください。
- ・ 本製品は、屋内での使用を前提に設計されています。屋外でご使用の際には使用条件定格内になるように工夫してご使用ください。
- ・ 本製品内部に異物等が入らないようにご注意ください。
- ・ 本製品を持ち歩くときや、輸送するときは携帯プラグに無理な力がかからない様にして下さい。
- ・ 通報装置は、登録された電話番号が正しく設定されているかどうか認識できません。従って、誤った電話番号を登録されると内容によっては多額の電話代がかかったりする場合があります。ご利用の前には設定後に動作試験(メール通報の場合メールの受信を確認してください)を必ず実施してからご使用下さい。また通報先に登録してある電話の解約の際には通報装置の設定修正・動作試験を行ってください。

設置場所について

本製品を次のような場所に設置しないでください。動作が不安定になったり、おもわぬ火災や故障の原因となったりする場合があります。

- ・ 急激な温度変化や湿度変化があったり、結露したりするような場所。
- ・ 直射日光が当たる場所。
- ・ 水気、火気のある場所。
- ・ 粉塵等のほこりの多い場所。
- ・ 不安定な場所や振動がある場所。
- ・ 強い磁気や電磁波を発生する機器の近く。

- ・ 腐食性ガスのある場所。
- ・ 気化した薬品や化学反応をおこす様な場所、空気中に塩分が含まれている場所。

お願い

本製品に接続する携帯電話機の仕様および操作方法は、携帯電話機に付属の説明書をお読みください。
本製品やケーブル等は、小児の手の届かない場所に保管、設置してください。
長期間にわたって無人で使用する場合は、必ず定期的に保守および点検を行ってください。

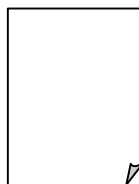
パッケージ内容の確認

製品をご使用になる前に、パッケージに以下のものが全て揃っているか確認してください。
不足しているものがございましたら、お買い上げの販売店、または弊社までご連絡ください。

WhiteLock991DS (赤外線センサータイプ)



WL991DS 本体

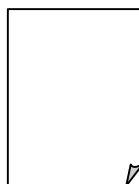


保証書

WhiteLock991DG (外部接点入力タイプ)



WL991DG 本体



保証書

本製品には、携帯電話機は付属しておりません。

上図と実際のものとは多少形状等が異なる場合がありますのでご了承下さい。

パッケージには、電池は含まれておりません。製品をご使用の際にはお近くの電器店などでお買い求め下さい。電池は、006P 9Vのアルカリ電池です。

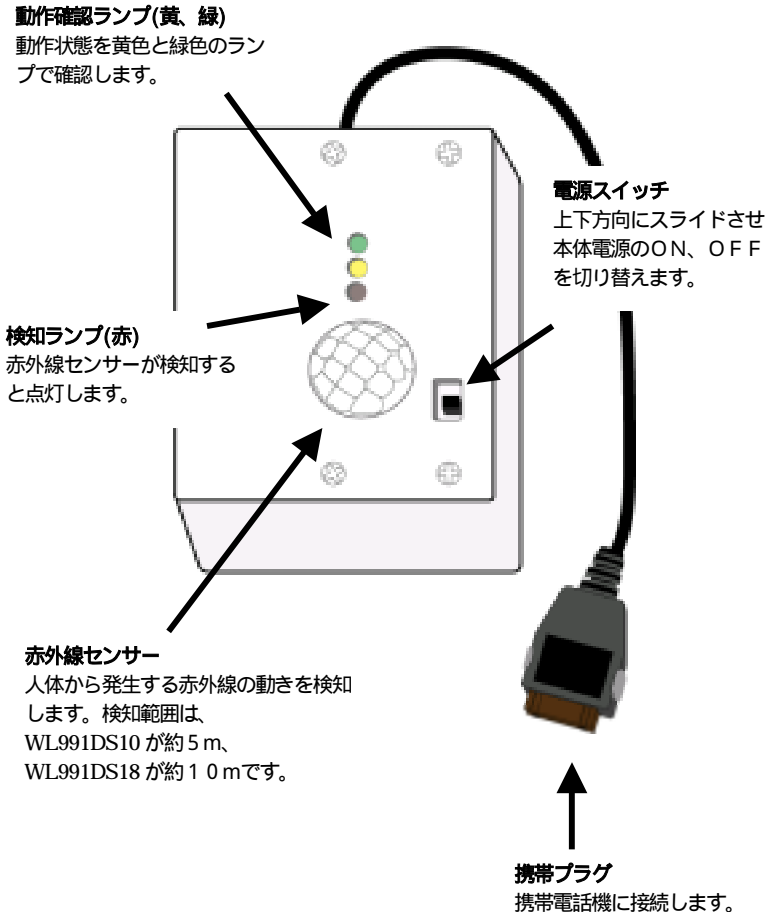
目次

はじめに	1
ご使用の前に	4
略称、商標について	4
制限事項	4
安全にお使いいただくために必ずお守りください	6
設置場所について	6
お願い	8
パッケージ内容の確認	8
各部の名称とその機能	11
WL991DS (赤外線センサータイプ) の外観	11
WL991DG (外部接点入力タイプ) の外観	12
本製品内部	13
携帯電話機の接続と電源について	14
本製品の電源の入れ方と切り方	14
電池の取り付け及び交換	14
携帯電話機と本製品の接続	15
通報の種類	16
通常の通報	16
電池電圧低下時の通報	16
通報の流れと確認	18
動作設定	19
設定スイッチ	19
携帯電話機の設定	20
「携帯メール通報」の設定	22
設置と運用	24
WL991DS (赤外線センサータイプ) の場合	24
WL991DG (外部接点入力タイプ) の場合	26
タイプ共通	27
1回の通報にかかる通話時間	28
本製品のランプ	29
ランプの状態と動作	29
Q & A 困ったときにお読みください	31
こんなときには	36
正常に通報が出来なかったとき	36
本製品を清掃するときは	37

センサー部分を清掃するときは.....	37
仕様	38
WhiteLock991D 本体.....	38
WL991DS 内蔵のセンサー.....	39
WL991DG のリード線について.....	41
補足	42
通話料について.....	42
電池電圧低下通報のテスト.....	42
2003 年 11 月現在のメールセンターの電話番号.....	43

各部の名称とその機能

WL991DS (赤外線センサータイプ) の外観



携帯プラグに無理な力が加わると、破損する恐れがあります。搭載されている赤外線センサーが著しく汚れたり、傷ついたりすると正常に検知出来なくなります。設置時や設置後、輸送時には携帯プラグの取り扱いには慎重に行ってください。センサーの仕様については、「32」ページからの「WL991DS 内蔵のセンサー」をご覧ください。

WL991DG (外部接点入力タイプ) の外観

動作確認ランプ(黄、緑)

動作状態を黄色と緑色のランプで確認します。

検知ランプ(赤)

リード線が短絡すると点灯します。

電源スイッチ

上下方向にスライドさせ本体電源のON、OFFを切り替えます。

外部接点入力用リード線

センサーなどを接続します。接続出来るセンサーは無電圧 a 接点仕様のものです。

携帯プラグ

携帯電話機に接続します。

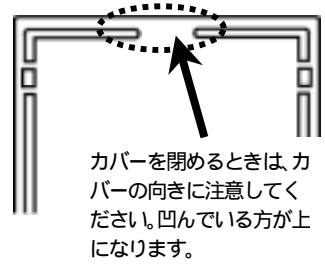
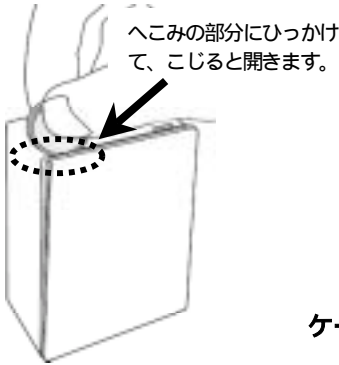
携帯プラグやリード線に無理な力が加わると、破損する恐れがあります。

設置時や設置後、輸送時には携帯プラグやリード線の取り扱いには慎重に行ってください。

外部設定入力用リード線の仕様については、「33」ページの「WL991DG のリード線について」をご覧ください。

本製品内部

1円玉などのコインを利用して本製品の背面カバー下の隙間をこじるとカバーが容易に外れます。
電池の交換または設定スイッチを操作するとき以外は、背面カバーを閉じて下さい。



ケース内部

設定スイッチ

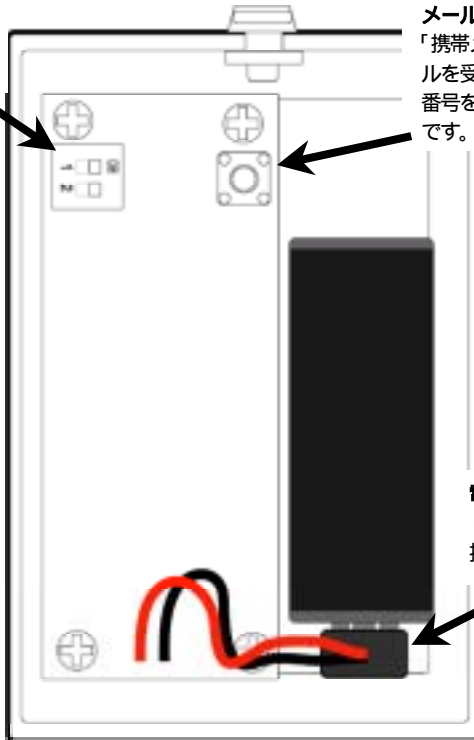
動作を設定するスライドスイッチです。

メール送信先登録スイッチ

「携帯メール通報」の時に、メールを受信する携帯電話機の電話番号を登録するためのスイッチです。

電池スナップ

006P 9Vの電池を接続します。

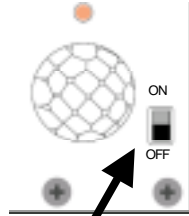


携帯電話機の接続と電源について

本製品の電源の入れ方と切り方

電源の入れ方

本製品の電源スイッチをONの方向にスライドさせます。
 電源をONにすると、WL991DSは動作確認ランプの黄色が点滅します。
 WL991DGの場合は、動作確認ランプの緑色が1回点灯して消えます。
 電源投入後に赤外線センサーが検知したり、リード線が短絡したりして
 いると検知ランプ（赤色）が点灯または点滅します。



電源スイッチ
 上図はWL991DSです。

電源の切り方

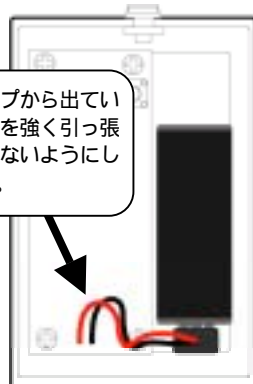
本製品の電源スイッチをOFFの方向にスライドさせます。本製品の電源をOFFにしても接続している携帯電話機の電源がONになっている場合（通報中）は、携帯電話機の電源をOFFにしてください。

電池の取り付け及び交換

本製品を初めて利用される時や、電池を交換する場合は、新しい電池を取り付けてください。
 古い電池を取り付けると電池の電圧が不足している為に、誤動作する場合があります。
 電池の取り付けは、本製品の電源スイッチをOFFにしてから内部の電池スナップにしっかりと取り付けてください。
 また、電池の交換時には本製品に接続する携帯電話機の充電も行ってください。



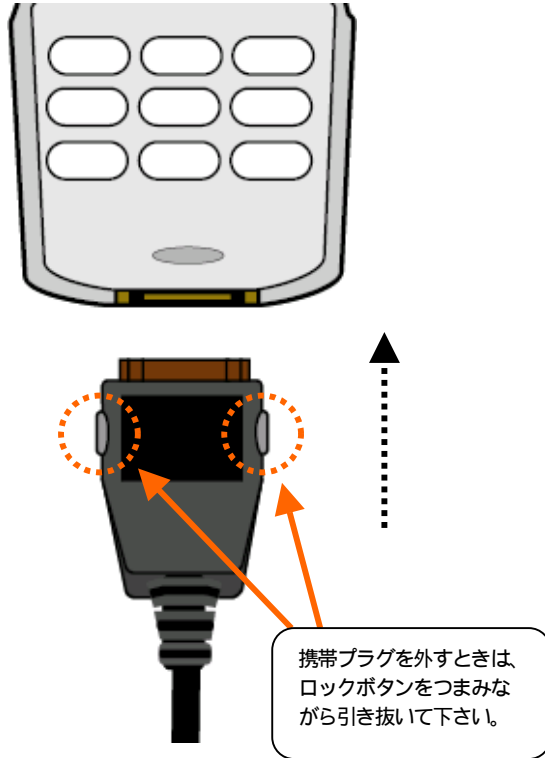
006P 9V



電池スナップから出ているケーブルを強く引っ張ったり捻らないようにしてください。

携帯電話機と本製品の接続

- 本製品の電源をOFFにして、本製品の携帯プラグを携帯電話機に接続して下さい。コネクタは、「カチッ」と音がしてロックされるように差し込みます。
- 本製品の動作確認、運用、「携帯メール通報」の通報先の登録操作の時に接続して下さい。このとき、携帯電話は節電のため、自動的にOFFになります。
- 外す場合は携帯プラグ両側のロックボタンをつまみながら引き抜いてください。



注意

通信中に携帯電話機のボタン操作をしたり、携帯のプラグを抜き取ったりした場合は誤動作します。

通報の種類

通常の通報

WL991DS は、内蔵の赤外線センサーが検知したときに通報します。WL991DG は、2本のリード線が短絡したとき通報します。

通報の種類は、本体内部の設定スイッチの設定により以下の通報方法を選択します。

通報の種類	利用サービス等	内 容
タダ電通報	通常の通話	通報先の電話機のベルを鳴らすだけの通報です。料金はかかりません。通報先の電話機に表示される発信者番号で通報を確認します。電話機によっては、呼出音を鳴らさずに電話を取る場合があります。その場合は料金が掛ってしまいます。たとえば、携帯電話の留守番電話サービスやドライブモードなどです。ご注意ください。
出るまで通報	通常の通話	通報先の電話機が受話器を取るまでベルを鳴らし続ける通報です。通報先の電話機に表示される発信者番号で通報を確認し、電話に出て切ることで通報完了とします。通話料金がかります。通報先を呼び出してから 60 秒以内に通報先が電話を切らないとリダイヤルを行います。
携帯メール通報	ショートメール	NTTドコモの携帯電話機へ文字メッセージで通報します。 メッセージ内容：「 WL991D から緊急通報です」
	スカイメール	ボーダフォン（旧 J-PHONE）の携帯電話機へ文字メッセージで通報します。 メッセージ内容：「 WL991D から緊急通報です」 ツーカーセラー東京、ツーカーセラー東海、ツーカーホン関西の携帯電話機へ文字メッセージで通報します。 メッセージ内容：「 WL991D から緊急通報です」

電池電圧低下時の通報

本製品は、内部に取り付けた電池の電圧が著しく低下すると通報します。

このときの通報は、全て「出るまで通報」となり、電話に出るまでベルを鳴らし続けます。

電池電圧低下時の通報を行った後は、赤外線センサーや外部接点入力で検知しても通報しません。

また、携帯電話機の電源をONの状態にしたまま待機します。

この通報を受けた場合は、新しい電池に交換して下さい。

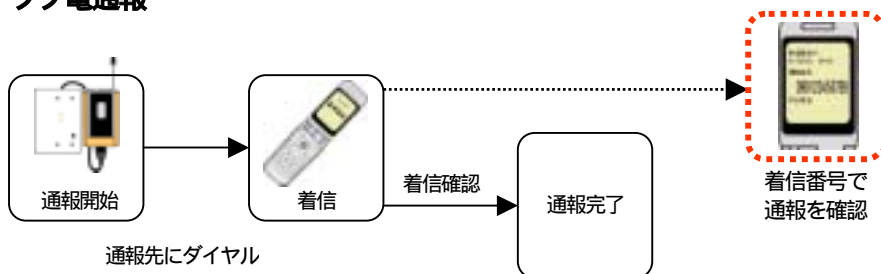
電池電圧低下時の通報と、赤外線センサー検知時、リード線短絡時の通報は、電池電圧低下の通報が優先されます。このため定期的に通報の点検をされ、電池はお早めに交換するようにして下さい。

通報の流れと確認

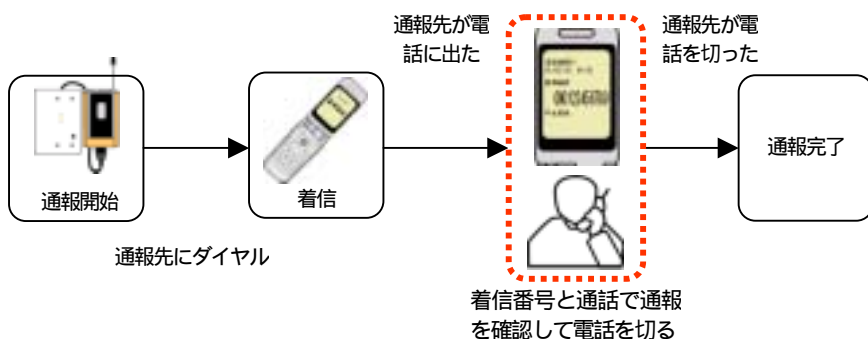
各通報の簡単な流れは下記の通りです。

通報先での確認操作は、点線枠内の部分になります。それ以外の部分は、自動動作です。

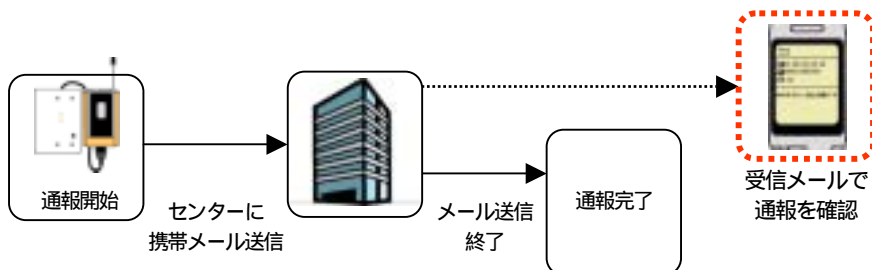
タダ電通報



出るまで通報



携帯メール通報

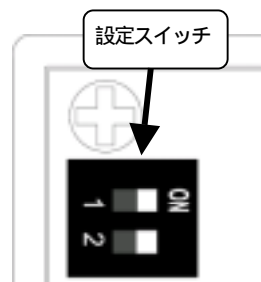


動作設定

設定スイッチ

本製品の動作設定は、通報の種類に合わせて本体内部の設定スイッチを操作します。
 設定スイッチの変更は、必ず本製品の電源をOFFにしてから行って下さい。
 設定スイッチをONにする場合は、ONと書いてある方向にスイッチをスライドさせます。
 指でスライドさせにくい場合は、爪楊枝などを利用すると便利です。
 「携帯メール通報」の種類は、必ず通報先の携帯電話機に合わせて設定してください。

通報の種類	利用サービス等	スイッチの状態	
		1	2
タダ電通報	通常の通話	ON	ON
出るまで通報	通常の通話	OFF	ON
携帯メール通報	通報先：ドコモ ショートメール	ON	OFF
	通報先：ボーダフォン or ツーカー スカイメール	OFF	OFF



本製品に接続したボーダフォンの携帯電話機から、NTTドコモの携帯電話機へ「携帯メール通報」を行う場合は、通報先がショートメールになるのでスイッチはショートメールに合わせて設定してください。(スイッチ1：ON、スイッチ2：OFF)

「タダ電通報」を指定される場合は、「簡単マニュアル」をご覧ください。

「出るまで通報」を指定される場合は、内部設定スイッチの設定以外は「タダ電通報」と設定、動作確認方法共に変わりませんので、同じく「簡単マニュアル」をご覧ください。

携帯電話機の設定

通報先の電話番号は本製品に接続する携帯電話機のメモリダイヤルを使います。

「タダ電通報」、「出るまで通報」をお使いになる場合は、メモリダイヤルの「001」番に通報先の電話番号を登録します。

「携帯メール通報」をお使いになる場合は、メモリダイヤルの「001」番に通報先の携帯電話機の電話番号、「002」番にメールセンターの電話番号を登録します。

次項に通報の種類とメモリダイヤルの登録に関する表がありますので、合わせて確認してください。

また、通報先を登録したいメモリ番号が登録済みの場合は、既存の登録内容を別のメモリ番号に変更してから通報先を登録して下さい。



通報の種類	利用サービス等	メモリダイヤル001	メモリダイヤル002
タダ電通報	通常の通話	通報先の電話番号	設定の必要なし
出るまで通報	通常の通話	通報先の電話番号	設定の必要なし
携帯メール通報	ショートメール	メールを受信する携帯電話機の電話番号	ショートメールセンターの電話番号
	スカイメール (ボーダフォン)	メールを受信する携帯電話機の電話番号	スカイメールセンターの電話番号
	スカイメール (ツーカー)	メールを受信する携帯電話機の電話番号	スカイメッセージサービスセンターの電話番号

「携帯メール通報」を利用する場合

設定するメールセンターの電話番号はメールを受信する携帯電話機に合わせて設定して下さい。詳しくは「43」ページのメールセンターの番号をご覧ください。

例えば、通報先がNTTドコモの携帯電話機なら、本製品と接続した携帯電話機にはメールを受信するNTTドコモの携帯電話機と、ショートメールセンターの電話番号を設定します。

また、携帯電話機の設定をした後に、本製品に通報先を登録する必要があります。本項と合わせて「22」ページからの「「携帯メール通報」の設定」もご覧ください。

電話番号登録後、発信者番号は必ず通知するように設定して下さい。

携帯電話機によってはメモリダイヤルの番号が「000」番と「001」番の場合もありますので、必ず動作確認をしてください。

携帯電話機によってはメモリダイヤルの「001」番が短縮の1番又は0番の場合もあります。

携帯電話機によっては電話番号を設定する場所のことを、「メモリダイヤル」、「電話帳」、「短縮ダイヤル」、「短縮グループ」など様々な名称になっていますのでご注意ください。

暗証番号(パスワード)の設定によってはダイヤルできない場合があります。この場合は出荷時の状態に設定してください

携帯電話機がキーロック(暗証番号を入力しないと使えない状態)にしてあるとダイヤルできない機種があります。このときはキーロックを解除した状態でご利用ください。

「携帯メール通報」の設定

「携帯メール通報」を利用する場合、以下のような手順で本製品を設定する必要があります。
説明中に出てくる図はWL991DSですが、動作確認ランプの付き方や動作は、全タイプ共通です。
また、操作中に本製品の検知ランプ（赤色）が点滅、点灯しても異常ではありません。

1. メモリダイヤルの「001」番にメールを受信する携帯電話機の電話番号、メモリダイヤルの「002」番にメールセンターの電話番号を登録します。

登録可能なメールセンターの電話番号は、最大30桁までです。

登録方法は、携帯電話機付属の取扱説明書をご覧ください。



2. 携帯電話機の暗証番号を「0000」に設定して下さい。
暗証番号のことを「ロックNo.」などと呼ぶこともあります。



3. 背面カバーを開けた本製品と、電話番号を登録した携帯電話機の電源をOFFにして本製品の携帯プラグで接続します。

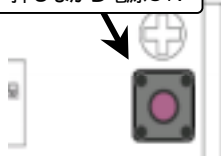


背面カバーを開けて、
携帯電話機と接続。



4. 本製品内部の「メール送信先登録スイッチ」を押しながら本体の電源をONにします。

押しながら電源ON



5. 本製品の動作確認ランプの黄色が点灯し、携帯電話機の電源が自動的にONになります。動作確認ランプの黄色が点灯したら、「メール送信先登録スイッチ」を放します。



6. 数十秒すると動作確認ランプの黄色が消灯し、緑色のランプが一瞬点灯します。



7. その後、動作確認ランプの黄色がゆっくりと点滅したらセンター番号登録完了です。本製品の電源をOFFにして携帯電話機を取り外して下さい。これで、設定は完了です。また、携帯電話機の暗証番号を変更した場合は元に戻して下さい。



6. の操作で動作確認ランプの緑色が5秒以上点灯している場合は、読み込みエラーです。本製品の電源をOFFにして、2. の操作から作業を行って下さい。2、3回この操作を行ってもエラーが改善されないときは、本製品の電源をOFFにし、携帯電話機を取り外してメモリダイヤルに登録した内容や暗証番号を確認して下さい。

6. の操作で緑色のランプが点灯したままになる場合は、携帯電話の暗証番号が「0000」になっていません。「0000」に設定して下さい。

本製品に接続する携帯電話機を変更した場合や、通報先の携帯電話機を変更した場合は、この登録操作を再度行ってください。

設置と運用

WL991DS (赤外線センサータイプ) の場合

1. 設置場所を決める

本製品を設置する前に、本製品の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。

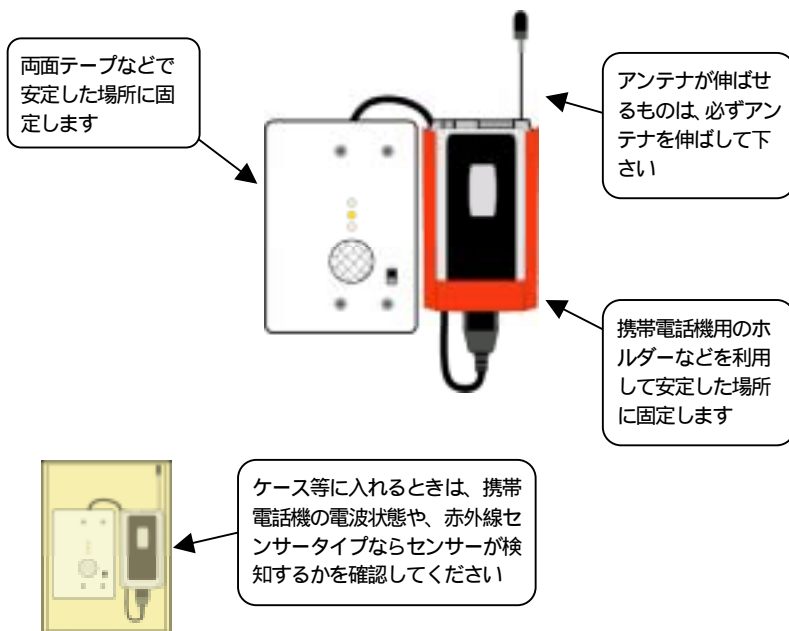
玄関や部屋の入り口や侵入検知などを行いたい場所が、必ず赤外線検知エリア(次項参照)に入るように設置して下さい。

壁や天井などに取り付ける場合は、自動車用両面テープなどを使用して下さい。

本製品に接続する携帯電話機は、携帯電話機専用ホルダーなどを利用して固定して下さい。

携帯電話機が通話圏外にならない場所でアンテナが伸ばせる機種の場合は、アンテナを十分に伸ばした状態でお使い下さい。また、携帯電話を横にせず縦に設置してください。

ケース等に入れて使用する場合は、携帯電話機の電波状態やセンサーが検知するかを確認してください。赤外線センサーについては、「39」ページ「WL991DS 内蔵のセンサー」も合わせてご確認ください。



2. 運用を開始する

搭載されている赤外線センサーの検知エリアは、WL991DS18 の場合は本体前面から半径約 10 m、WL991DS10 の場合は本体前面から半径約 5 m です。

本製品の監視中にこの検知エリアに入ると通報を行います。

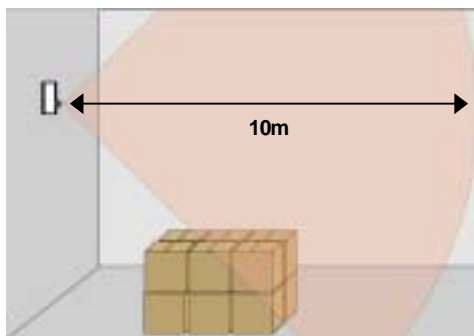
常に人や動物が検知エリア内にいるような場所では、検知ランプが点灯または点滅を繰り返します。従って、簡易警備などを行う際には、運用時間によって本製品の電源の ON、OFF を切り替えると電池の消耗や無駄な通報が少なくなります。

また、帰宅時など無駄な通報を止めたい場合は、検知後すぐに本体の電源を切って下さい。

携帯電話機の電源が入ったときは、携帯電話機の電源も切して下さい。

監視の開始

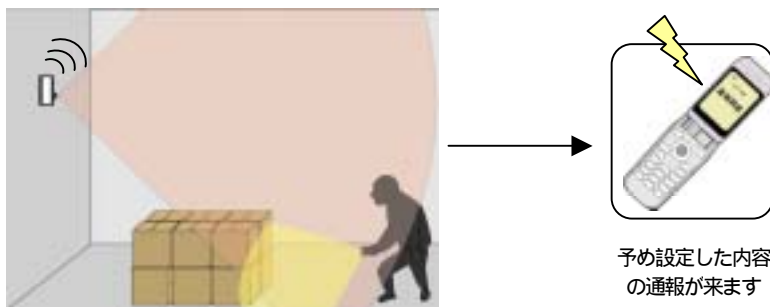
装置の電源を ON にしてセンサーの検知範囲から離れます。



センサーから光は照射されません。検知範囲はイメージです。

検知と通報

赤外線センサーの検知エリアに入ると、通報を開始します。



WL991DG（外部接点入力タイプ）の場合

1. 設置場所を決める

本製品を設置する前に、本製品の仕様を確認の上、設置場所を決めて下さい。

本製品から出ているリード線に、無電圧 a 接点のセンサーやスイッチなどが接続できます。

センサーなどを接続する前に、リード線を短絡させるだけで通報が行えるか動作確認を必ず行ってからセンサーなどを取り付けて下さい。

センサーを接続する場合は、センサーの仕様をよく確認してから取り付けてください。

壁や天井などに取り付ける場合は、自動車用両面テープなどを使用して下さい。

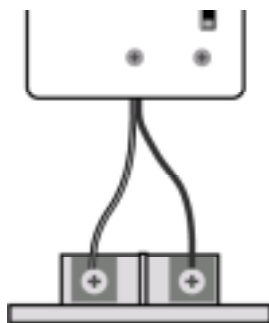
本製品に接続する携帯電話機は、携帯電話機専用ホルダーなどを利用して固定して下さい。

携帯電話機が通話圏外にならない場所でアンテナが伸ばせる機種の場合は、アンテナを十分に伸ばした状態でお使い下さい。また、携帯電話を横にせず縦に設置してください。

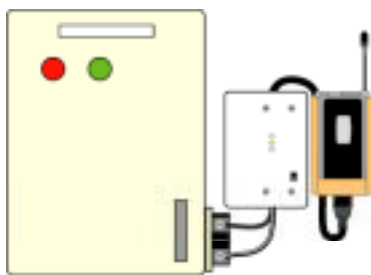
携帯電話機を金属のケース等に入れて使用する場合は、携帯電話機の電波状態が非常に悪くなります。電波が通りやすいプラスチックケースに入れ替えるか、携帯電話機のアンテナ部分を外に出してお使い下さい。

「41」ページの「WL991DG のリード線について」もあわせてお読み下さい。

ドアセンサー取り付け例



制御機器等への取り付け例



2. 運用を開始する

リード線に接続したセンサーなどの接点が閉じると、通報を開始します。

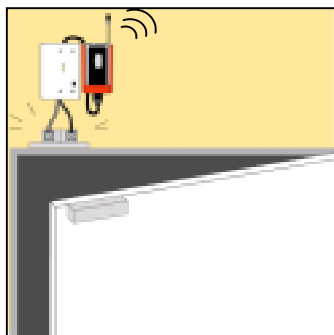
また、リード線が短絡している状態が長いと、検知ランプ（赤色）が点灯し続けますので本製品の電池の消耗も多くなります。

通報中に接点の状態が変化（ON OFF ONなど）しても状態変化の通報は行いません。

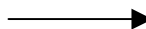
通報終了後、接点がOFFになっている状態からONになると再び通報を行います。

検知と通報

接続したセンサーなどにより、リード線が短絡すると通報を開始します。



上図はドアセンサー作動時



予め設定した内容の通報が来ます

タイプ共通

電池電圧低下の通報を受けた場合

電池電圧低下時の通報は全て「出るまで通報」となります。

通常の通報を「出るまで通報」に設定している場合は判別がつかまず、確認操作が必要となります。確認方法は通報元に電話をかけ、呼出音が鳴ったときは電池電圧低下の通報です。

電池の交換について

「14」ページの「電池の取り付け及び交換」をご覧ください。

通話料について

補足資料として、「42」ページに「通話料について」を載せています。

1回の通報にかかる通話時間

本製品は、通報の前に携帯電話機の電源をONにして通報が出来るまで待機します。携帯電話機によって、この起動時間は異なりますが、約30～40秒程度です。この待機の後、通報を行います。

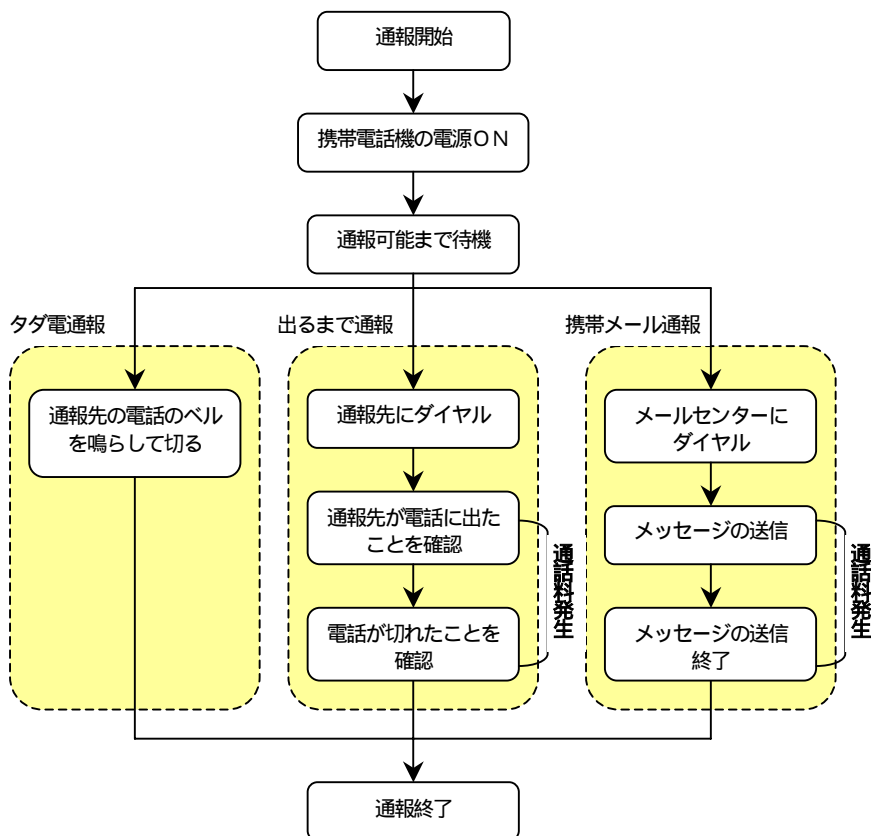
「タダ電通報」の場合は、通報先の電話に出る必要がないので、基本的に通話時間は発生しません。

「出るまで通報」の場合は、通報を受けた電話機機を受話器を上げている時間によって通話時間は異なります。また、受話器を上げている間は、音は聞こえてきません。

「携帯メール通報」の通話時間は、約40～50秒程度です。

通報先の電話機の電源が切れている、電話が通じないなど通報完了となる条件を満たしていないとリダイヤルを行います。

通話料については、「42」ページの「通話料について」をご覧ください。



本製品のランプ

ランプの状態と動作

本製品前面に赤色、黄色、緑色の3つのランプがあります。この3つのランプで本製品の動作状況を確認することが出来ます。

全タイプ共通

メール送信先登録時の動作確認ランプ（黄色、緑色）

メール送信先登録ボタンを押しながら本製品の電源をONにした時の状態です。

黄色ランプ	緑色ランプ	内 容	備 考
点灯	消灯	センター番号読み込み待機中	
消灯	点灯	センター番号登録作業中	異常なら点灯したまま
ゆっくり点滅	消灯	センター番号登録完了	
消灯	消灯	電源OFF	

WL991DS（赤外線センサータイプ）

検知ランプ（赤色）

本製品前面の赤外線センサーが検知したときに点灯または点滅します。本製品の電源ONで状態に関係なく動作します。

監視状態、通報時の動作確認ランプ（黄色、緑色）

赤外線センサー検知後、通報を行うときの状態です。

黄色ランプ	緑色ランプ	内 容	備 考
高速点滅	消灯	センサー安定待ち待機中	30秒または60秒間
消灯	消灯	監視状態	電源OFFを除く
ゆっくり点滅	ゆっくり点滅	通報待機中	
点灯	消灯	通報中	
消灯	高速点滅	通報終了	
高速点滅	高速点滅	電話がつかないとき	リダイヤル待機中に移行
ゆっくり点滅	消灯	リダイヤル待機中	

WL991DG（外部接点入力タイプ）

検知ランプ（赤色）

本製品側面から出ているリード線が短絡すると点灯または点滅します。本製品の電源ONで状態に関係なく動作します。

監視状態、通報時の動作確認ランプ（黄色、緑色）

接点短絡後、通報を行うときの状態です。

黄色ランプ	緑色ランプ	内 容	備 考
消灯	点灯	監視開始	電源ON直後1回のみ
消灯	消灯	監視状態	電源OFFを除く
ゆっくり点滅	ゆっくり点滅	通報待機中	
点灯	消灯	通報中	
消灯	高速点滅	通報終了	
高速点滅	高速点滅	電話がつかないとき	リダイヤル待機中に移行
ゆっくり点滅	消灯	リダイヤル待機中	

Q & A 困ったときにお読みください

全タイプ共通

Q. 取り付けは素人でも出来ますか？

A. 本製品と携帯電話機を携帯プラグで接続し、両面テープなどで本製品と携帯電話機を壁に固定するだけです。ホームセンターなどで販売している携帯電話機用のホルダーなどを利用すると良いでしょう。

Q. 携帯電話機の電波で赤外線センサーが誤動作することはありますか？

A. 携帯電話の電波による誤動作はありません。

Q. 本製品の電池はどれくらいもちますか？

A. 通報回数や、電池のタイプにもよりますが、まったく通報の無い状態であれば4ヶ月以上もちます。尚、電池切れになった場合は電池切れ情報を通報します。但し携帯電話機の電池残量低下の通報はできません。

Q. PHSを接続できますか？

A. できません。

Q. 一般加入電話で通報をうけられますか？

A. 「タダ電通報」、「出るまで通報」の場合、通報を受けることが可能です。ただし、発信者（通報元）を特定する為に、ナンバーディスプレイ対応の電話機で通報を受ける必要があります。

Q. PHSで通報をうけられますか？

A. 「タダ電通報」、「出るまで通報」でしたら、通報を受けることが可能です。

Q. 屋外で使用できますか？

A. 本製品は、防水防雨仕様ではありません。水滴や、雨、粉塵等に晒される場所では適当なケースに組み込んでください。また、接続される携帯電話の仕様もご確認ください。

Q. 通報が正常に終了しないときはどうなりますか？

A. 一度ダイヤルを開始してから通報が終了するまで、リダイヤルを繰り返します。詳しくは、「36」ページの「正常に通報が出来なかったとき」をご覧ください。

Q. 「タダ電通報」なのに、通話料が発生している

A. 「タダ電通報」にしている場合に通常、通話料は発生しません。ただし、通報を受ける側の電話機が留守番電話になっていて、呼び出し音0回で録音を開始するようになっている場合は、通話料が発生する可能性があります。

そのようなときは、留守番電話が出るまでの呼び出し音の確認回数を数回多めに設定してください。

Q . 携帯電話機で通報を受けるためには携帯電話機が2台必要になるのですか？

- A . 通報を受ける電話機はPHSやナンバーディスプレイ対応の電話機でも良いのですが、本製品を移動中に使いたい場合には2台必要となります。

Q . 誤動作などで電話代が多く請求されるようなことはありませんか？

- A . 電話の仕組みとして相手が電話に出なければ当然電話代はかかりません。
また、電話を受けた側が電話を切れればその時点から電話代はかかりません。
「携帯メール通報」にした場合、一定時間が経過するとメールセンター側が電話を切りますのでそれ以上電話代はかかりません。但し、通報先の設定がショートメールを受信出来ない番号(ショートメールサービスを契約していない、ショートメール拒否設定になっている、解約等で番号が存在しなくなった、その他)の場合、多額の電話代が請求される事がございます、必ず設定時の確認、また通報先に登録してある携帯電話の解約時、ショートメールサービス停止時の通報装置の設定変更を行ってください。ショートメール受信が出来ない電話機に対するショートメール通報によって多額の電話代が請求された場合、弊社は一切その責任をおいかねますので、あらかじめご了承ください。

Q . 携帯電話機の電源がONのままです

- A . 本製品の電池電圧が少なくなっていることが考えられます。電池を新しいものに交換するか、充電式電池の場合は充電し直してご利用下さい。

Q . 本製品が通報中に電話を切るにはどうしたら良いのですか。本製品の電源をOFFにしても電話が切れないのですが。

- A . 携帯電話機の電話を切るボタンを押してください。これで電話が切れますが、本製品の電源をOFFにしないと、リダイヤルしますので本製品の電源もOFFにしてください。

Q . 「タダ電通報」のとき、通報先の電話機のベルが鳴ったり鳴らなかつたりします

- A . 「タダ電通報」は通報先の電話機のベルを鳴らしたら電話を切ります。このとき、通報先の電話機のベルが一瞬で切れる場合があります。ベル(着信音)の鳴る時間が調整できましたら、多少長めに調整してください。

Q . 「携帯メール通報」のメッセージが文字化けするのですが

- A . 発信元の携帯電話機の、電波状態が悪い可能性があります。また、電波ノイズが混入したりするときに起きる可能性があります。
本製品は、通報メッセージを送信している途中で、通話が切れるとリダイヤルします。

Q . 携帯電話機の電話帳に電話番号を追加するとき、メモリの空き番号に登録されてしまう場合

- A . 電話番号の追加が、自動的に空き番号へ登録されてしまう場合は、通報先の電話番号をとりあえず登録します。この時、登録した通報先がメモリ番号の何番に登録されたかを控えておきます。次に、先程登録した電話番号を編集してメモリ番号を「001」に変更して登録します。

Q . F211iで電話がかかりません。

- A . 通報先の電話番号は「短縮グループ」の1と2に登録してください。

Q . F505iで電話がかかりません。

- A . 同じメモリ番号001でも電話番号が3つ登録できますが、最初の欄に電話番号を登録してください。2番目、3番目に登録しても電話はかかりません。

Q . 「携帯メール通報」の1回の送信料金が高いようですが。

A . 「携帯メール通報」で利用するショートメール、スカイメールは、携帯電話機の操作メニューから送信する場合と違い、メールセンターへ電話をかけて通話というかたちでメッセージを送信します。従って、通常の通話料と同じ料金が発生することになります。

Q . 「出るまで通報」にすると何回も電話がかかってきます。

A . 「出るまで通報」は通報を開始してから 保留秒以内に通報先で、受話器を取って電話を切る操作を行わないと、リダイヤル動作を行います。
何回もリダイヤルを行わないように、通報先で電話を受けたら速やかに電話を切るようにして下さい。

Q . 携帯メールの設定時に緑のランプが点灯したままになるのですが。

A . 携帯電話機の暗証番号が「0000」になっていません。暗証番号を「0000」にしてから携帯メールの設定を行ってください。

Q . 携帯電話機へ充電できますか？

A . できません。

Q . 接続する携帯電話機に必要な契約はありますか？

A . ありません。音声で電話をかけたり、受けたりできれば良いです。i モード契約などは必要ありません。もちろん、携帯メールで受信する必要がある通報先の携帯電話機には対応したサービスの契約が必要です。

Q . 携帯電話と本体を接続するケーブルを延長できますか？

A . できません。長くするとノイズが入り正常に通信できなくなる可能性があります。

WL991DS (赤外線センサータイプ)

Q . 車内に設置したとき、車の外を通る人や動物に反応しませんか？

A . オープンカーや窓の開いている車などは、人や動物が赤外線センサーに反応する可能性があります。車外の赤外線を検知しないように窓を開けておけば検知しません。

Q . 電源を入れたらランプが点滅したままになるのですが。

A . 電源を入れると黄色のランプが点滅します。これは赤外線センサーが安定するまで待つためです。約30秒間センサーに検知させないようにしてください。するとランプが消え待機状態となります。

Q . 設置場所の温度変化による誤動作はありませんか？

A . 温度変化が激しい場所に設置した場合には、赤外線センサーが検知することがあります。温度むらのある場所へ赤外線センサーを向けなければ問題はありません。

Q . 周囲の温度によって検出感度は変化しますか

A . 変化します。

周囲温度による感度の変化は季節によって現れます。

夏場は人体表面温度と室温の差が小さくなるため検出しにくく、冬場はその逆で検出しやすくなる傾向にあります。

また、気温が高くなったときのアスファルトや屋根の温度の揺らぎなどを検知する場合がありますのでなるべく日陰や直射日光の影響のない場所に設置して下さい。

WL991DG (外部接点入力タイプ)**Q . 電源を入れたら検知ランプが点灯したままになるのですが。**

A . リード線、またはリード線に接続しているセンサーなどが既に短絡している可能性があります。

リード線にセンサーなどを接続されている場合は、一度取り外して検知ランプが点灯するか確認してください。

Q . センサーを2個接続できますか？

A . できません。

Q . 1つのセンサーを2つのWL991DGに接続できますか？

A . できません。

こんなときには

正常に通報が出来なかったとき

通報時に、何らかの状態で通報を完了していないと判断したときは、電話を切って10秒待機した後、リダイヤルを行います。(動作確認ランプの黄色がゆっくり点滅)

この動作は通報が完了するまで何回でも繰り返します。

また、リダイヤルを何回も繰り返すと、本製品および携帯電話機の電池の消費が多くなります。

以下の条件を満たしていない場合はリダイヤルを行います。

通報の種類	通報完了の条件
タダ電通報	通報先の電話機のベルが鳴るまで。
出るまで通報	通報先と通話がつながって切れるまで。(通話が完了するまで)
携帯メール通報	メールセンターに電話がつながって、メッセージを送信完了するまで。

本製品が通報出来ない、主な原因としては以下の場合があります。

「タダ電通報」、「出るまで通報」、「携帯メール通報」共通

- ・本製品と携帯電話機のケーブルが外れている。
- ・携帯電話機のバッテリーがなくなっている。
- ・携帯電話機に登録した電話番号が間違っている。
- ・通報先の携帯電話機やPHSが圏外になっていたり、電源を切っている場合。
- ・通報元の携帯電話機が圏外になっている場合。
- ・通報先が話中の場合。

「出るまで通報」、「携帯メール通報」共通

- ・通報先(メールセンター)が電話に出ない。

「携帯メール通報」共通

- ・通報開始から通報先が電話を切れるまでに、60秒以上かかっている。

上記のリダイヤル動作を行わずに通報を終了しても、目的の電話機に通報が来ない場合は、電話番号の登録先が間違っている場合があります。

発信履歴が確認できる電話機なら、履歴に残っている電話番号から、どこのメモリダイヤルからダイヤルしたのかを特定することも出来ます。

本製品を清掃するときは

本製品のよごれは、やわらかい布に水または中性洗剤を含ませて軽く拭いてください。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いて拭いたりしますと、有害なガスが発生したり、変形や変色の原因になることがあります。

センサー部分を清掃するときは

検出面はホコリ・ゴミに強い検出方式になっていますが、異常に付着しますと検出距離の余裕度が低下しますので、検出面は清潔に保つようしてください。

センサー部分を清掃する場合は、柔らかい布などで軽く拭いて清掃して下さい。ベンジン、シンナーなど（揮発性のもの）や薬品を用いた場合、有害なガスが発生したり、変形や変色、感度の低下の原因になったりすることがあります。

仕様

WhiteLock991D 本体

	赤外線センサータイプ		外部接点入力タイプ
製品名 (型番)	WhiteLock991DS10 (WL991DS10)	WhiteLock991DS18 (WL991DS18)	WhiteLock991DG (WL991DG)
形式	電話番号通知及びDTMF呼出方式非常通報装置		
接続可能携帯電話機	デジタル携帯電話機		
自動発信タイミング	内蔵の赤外線センサー検知時		本製品のリード線短絡時 (短絡検出時間300ミリ秒)
	電池電圧低下時		
赤外線検知距離	5 m	10 m	
通報メッセージ	文字メッセージ送信時に「WL991Dから緊急通報です」		
話し中検知機能	あり (話し中及び通信が確立しないときにリダイヤル)		
電源	電池からの電源供給 (006P 9V、アルカリ)		
消費電流	待機時: 165 μ A 通報時: 5.2mA		待機時: 28 μ A 通報時: 5.2mA
動作温度	0 ~ 60		
動作湿度	15% ~ 80% (結露なきこと)		
周囲環境	腐食性ガスなきこと。 粉塵等汚れの激しい場所での使用は、センサーに影響のない様にカバー等で保護して下さい。		
呼出電話番号設定	通報先電話番号は携帯電話機内部に設定 「携帯メール通報」のときは、携帯電話機内部の情報を本製品に登録		
寸法 (mm)	50 (W) × 90 (H) × 26 (D) プラグ及びケーブル部分を除く		
重量	重量 約 80g (携帯電話機、電池を除く本製品重量)		

WL991DS 内蔵のセンサー

本製品内蔵のセンサーは、赤外線の変化を検出するMPモーションセンサーです。

人体以外の熱源を検知したり熱源の温度変化および移動がなかったりした場合には、検出しないことがあります。ご使用の際には以下の状況に注意してお使い下さい。

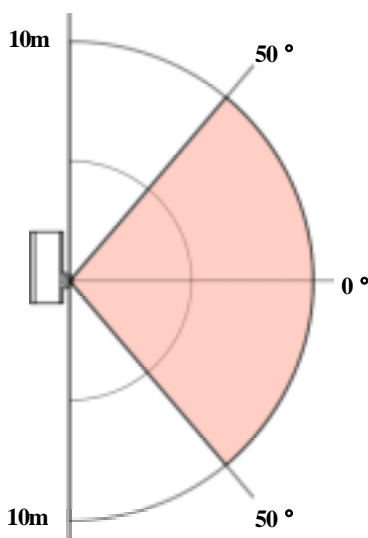
人体以外のものを検知する場合

- ・ 人体以外の動物が検出エリアに入った場合。
- ・ 太陽光、自動車のヘッドライト、白熱灯などの赤外線がセンサーに直射する場合。
- ・ 冷暖房機器の温風、冷風や加湿器の水蒸気などにより検出エリア内の温度が急激に変化する場合。
- ・ 通過する車両などを検知することがありますが、これは正常動作の範囲です。
- ・ たばこの火などの強力な赤外線を発するものはまれに検知することがあります。

検知しにくい場合

- ・ 検出対象物との間にガラスやアクリルなどの遠赤外線が透過しにくい物体がある場合。
例えば、車内と車外の赤外線を遮る窓ガラスが閉まっている場合などです。
- ・ 検出エリア内の熱源がほとんど動かない場合や、高速に移動する場合。

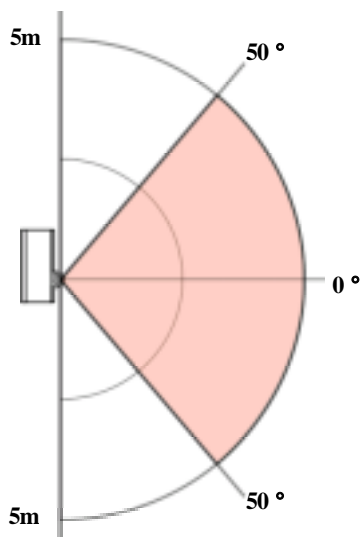
センサーの検知範囲 (WL991DS18)



検知距離	10m
検知角度（水平）	100°
検知角度（垂直）	100°

検知距離や、検知角度は周囲環境によって若干異なる場合があります。

センサーの検知範囲 (WL991DS10)



検知距離	5 m
検知角度 (水平)	100 °
検知角度 (垂直)	100 °

検知距離や、検知角度は周囲環境によって若干異なる場合があります。

WL991DG のリード線について

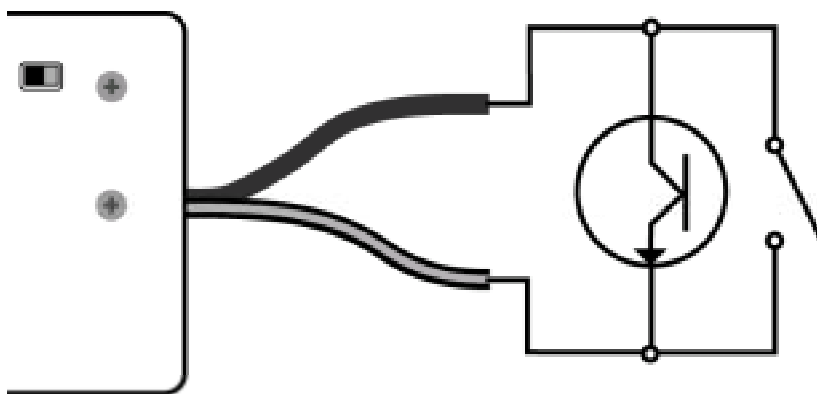
リード線には、無電圧 a 接点またはオープンコレクタを接続します。

オープンコレクタの接続は方向性がありますので、下図を参照して下さい。

本製品の電源ONの状態、リード線が短絡すると検知ランプが点灯します。

また、本製品の電源ONの状態で300ミリ秒(0.3秒)以上短絡させると、通報動作になります。

短絡している時間が長いと、検知ランプ(赤色)が点灯し続けますので電池の消耗が多くなるのでご注意下さい。



補足

通話料について

一般電話機、携帯電話機、PHSなどへ通報を行ったときの通話料目安は、以下の通りです。
通話料は各携帯電話会社、加入プラン、通報に使用する携帯電話機などによって異なります。

タダ電通報	通報先の電話機の受話器を取る必要がないので、通話料はかかりません。
出るまで通報	電話に出て直ぐに電話を切った場合、1回の通報で約10～60円です。
携帯メール通報	通報時間を50秒とすると、1回の通報で約15～60円です。

通報先が海外、衛星電話等の場合、上記表より通話料が高くなったり利用出来ない場合があります。
上記料金の算出は、2003年11月現在、ドコモグループ、ボーダフォン、ツーカーグループの
各料金表から算出したものです。詳しい通話料金については、携帯電話会社へお問合せ下さい。

また、一時的な使用や、流動的な料金の発生を防ぐためにプリペイド携帯電話機を利用する場合もあります。プリペイド携帯電話機を利用するときはメールの受信が可能かなど、事前に携帯電話会社などにご確認ください。

本製品に接続できるプリペイド携帯電話機は、必ず製品ページ (<http://www.adocon.co.jp/>又は
<http://www.adocon.jp/>) から確認して下さい。

電池電圧低下通報のテスト

電池電圧低下の通報を行うのは容易ではありません。

まず、使い古しのアルカリ電池を用意してください。

この電池を本製品に接続して電源をONにします。通常の状態で見視状態になれば、後は電池電圧低下の通報(「出るまで通報」)が来るまで待ちます。

電池の電圧が5.5V くらいのものでしたら数日中に通報が来るはずですが。

この通報後は、携帯電話機の電源はOFFにはなりません。

電池の電圧が5V以下のものは、正常に本製品が起動しなかったりしますので、テストには利用出来ません。

2006年11月現在のメールセンターの電話番号

下記、資料は2006年11月に弊社で調べたセンターの電話番号です。

「携帯メール通報」を行う際に登録するセンターの電話番号は、各携帯電話会社のサービス変更などにより電話番号や、サービス名称が変更される場合があります。

ご利用になる携帯電話のサービスに対応状況や、センター電話番号は携帯電話会社にご確認下さい。
また、必ず番号通知をするように携帯電話機を設定して下さい。

発信元携帯電話機	通報先携帯電話機	センター電話番号
NTTドコモ	NTTドコモ	1655
ボーダフォン ツーカーグループ	NTTドコモ	0903101655

*注:2006年10よりソフトバンクがスカイメールサービスの一部機能を停止された為スカイメールでの通報が出来なくなりました。

更新履歴

2006/11/21 Ver1.07

安全にお使いいただくために Q&A で通報先が通報を受ける事の出来ない場合の注意を追加
携帯メールセンター更新

2006/02/04 Ver1.06

ホームページのアドレスを追加

2005/06/07 Ver1.05

東京営業所の電話番号を変更

2005/03/31 Ver1.04

住所を変更

2004/8/30 Ver1.03

タダ電通報で、料金がかかる場合の例を追加
Q & Aの追加

「WhiteLock991D」

本書 Ver 1.07

取扱説明書

改定 2006年 11月

発行元 株式会社 アドコン

<http://www.adocon.co.jp/> 又は <http://www.adocon.jp/>

本社 TEL (0852) 54-2036 FAX (0852) 54-2196
〒690-2101 島根県松江市八雲町日吉 3-24

東京営業所 TEL (050) 8005-3069 FAX (03) 3784-1421
〒142-0053 東京都品川区中延 5-7-16